



奈良女子大学 大学・高専機能強化支援事業
(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)

事業案内



奈良女子大学は「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に申請し、採択されました。

日本では生産性や利便性を飛躍的に高めるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が産業、教育、行政等のあらゆる分野において求められていますが、その一方で2030年には先端IT人材が54.5万人不足するという調査結果や、我が国のデジタル競争力は先進諸国と比べて低いという指摘もなされています。

このような状況を踏まえ、文部科学省は大学院修士レベル以上の高度情報専門人材の確保に向けた大学の取組を支援することとしました。奈良女子大学においては生活環境学部文化情報学科生活情報通信科学コースと大学院情報衣環境学専攻を中心とした機能強化方策を提案し、**高度情報専門女性人材の確保に貢献する取組として採択されたものです。**

奈良女子大学では事業を全学的な情報教育の高度化の好機と捉え、専門的な情報教育の高度化と副専攻（情報科学）の新設を通じ全学的に情報教育を充実させ、「**生活者目線に立った高度情報専門女性人材**」の育成に繋げていきます。

奈良女子大学には30年に渡る情報科学教育の実績があり、すでに多くの卒業生が世界的なIT企業や研究所等で高度情報専門女性人材として活躍しています。先輩方は奈良女子大学の学生の情報・IT分野への進出に期待し、歓迎しておられます。また地域社会もAI技術とICT技術を活用して課題解決ができる女性人材を求めています。奈良女子大学は企業や地域等とも協力し、皆さんが高度情報専門女性人材として情報・IT分野で活躍できるよう全力でサポートします。

1. 情報専門教育の拡充（大学院修士レベルにおける取組）

①情報専門教育の拡充

事業選定時、「実務経験のある教員の経歴を踏まえた担当授業科目が具体的」と教育内容が特筆すべき点として評価されました。今後はさらに学生にも馴染みが深く社会からニーズの高い以下の講義を新設、教育を拡充します。

- ・ Twitter や Instagram 等のソーシャルメディア、Web アプリ、メタバース等ヒトとヒトとの関わり合いを支援するコンピュータシステム
- ・ アナログデータのデジタル化（デジタル化）
- ・ デジタル技術を用いた業務フローの改善や新たなビジネスモデルの創出（デジタルトランスフォーメーション、DX）
- ・ 衣服や腕、首などに装着可能な IoT 機器（ウェアラブルインタフェース）



②「プロジェクトマネジメント実践論」の開講

大手企業からゲスト講師を招き、システムの設計、開発や運用・保守といったプロジェクトマネジメントを実践的に学びます。

候補企業：Microsoft、アクセンチュア、デロイトトーマツ、日本 IBM 等



③専攻名称の変更と入学定員の拡充

高度情報専門人材を養成する組織の位置付けの明確化に向け専攻名称を令和7年度より「情報衣環境学専攻」から「情報環境学専攻」に改めます。（予定）
また、入学定員を現 10 名から令和9年度に 15 名（5 名増）、令和11年度に 25 名（さらに 10 名増）に増員します。



2. 情報専門教育の拡充（学部レベルにおける取組）

①数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の認定

情報科学分野の教育研究で実績のある生活環境学部において、文部科学省が定める数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の認定を受けます。（令和5年8月25日認定されました！）



②1 年次入学定員・3 年次編入学定員の拡充

高度情報人材を目指す女子学生の増加に向け、生活環境学部文化情報学科生活情報通信科学コースにおいては令和7年度より1年次入学定員を現 15 名から 27 名に増員します。また、同コースへの3年次編入学定員を新たに8名設けます。



情報専門教育の拡充 ロードマップ

令和5年	高度情報専門人材の確保に向けた機能強化開始
令和7年	大学院の専攻名称変更（「情報衣環境学専攻」⇒「情報環境学専攻」） 生活環境学部文化情報学科生活情報通信科学コースの定員増 （1年次入学15名⇒27名、3年次編入学8名受入）
令和9年	大学院生活環境学系情報環境学専攻の定員増（10名⇒15名）
令和11年	大学院生活環境学系情報環境学専攻の定員増（15名⇒25名）

文化情報学科生活情報通信科学コース
の情報はこちらをご覧ください。 ⇒



3. 全学的情報教育の拡充（学部レベルにおける取組）

①副専攻（情報科学）の新設

生活環境学部文化情報学科生活情報通信科学コースを中心に開講している数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）に適合した教育を副専攻として全学学生に提供し、全ての学生が希望に即して応用基礎レベルの情報教育を履修できる教育体制を整備します。

このことを通じて、情報科学分野と異分野を共に学んだ学生を輩出し、情報科学と異分野の融合を推進します。

②副専攻履修者への大学院情報環境学専攻への入学支援

副専攻（情報科学）を一定レベル以上の成績で修めた学生に対し、大学院情報環境学専攻への推薦入試の機会を提供し、優先的に大学院に進学する途を提供します。

③「バーチャル生活環境学部」（仮称）の整備

奈良の食プロジェクト（食を通じた地域活性化プロジェクト）、ナラコレ（服飾サークル）、等、生活環境学部が関連する学生参加プロジェクトをメタバース技術等で発信するウェブサイトを構築し、学生の情報発信をサポートするとともに情報発信スキルの向上に役立っています。また、奈良や地域の取組の情報発信拠点を目指し、地域へのリカレント教育にも活用します。

Major(主専攻)
+
Minor(副専攻)



4. 高度情報人材OGとの連携

①OGとの連携

奈良女子大学では1991年に理学部情報科学科数理情報科学講座が設置され、その後30年間、女子に向けた情報の学理の教育を実践してきました。OGの多くはIT企業や情報系研究所で高度情報人材として現役で活躍されています。奈良女子大学は佐保会という同窓会組織を有し、在學生と卒業生の繋がりが密な大学として知られていますが、このネットワークをさらに強化、高度情報女性人材ネットワークとして組織化し、企業が求める情報人材像の聴取や就職情報の収集、就職相談の実施等に繋げ、高度情報女性人材の社会進出に貢献します。



②「情報科学教育検証シンポジウム」の開催

令和5年3月に「情報科学教育検証シンポジウム」を開催しました。シンポジウムでは2008年前後に修士課程を修了し、企業・研究所・大学等で専門職に従事するOGに登壇頂き、本学での情報科学教育がどのように業務に役立っているか、学生時代に学んでおきたかったことは何かについて報告して頂きました。シンポジウムには在學生も多数参加し、将来に向けた意識啓発の好機となりました。こうした取組を継続し、企業等が求める教育ニーズの把握を進めるとともに学生の将来への意識啓発に役立てていきます。



活躍するOG: 情報系修士修了者は社会から強く求められています！

(近年の情報系修士修了者の主な就職先)

日立製作所、三菱電機、京セラドキュメントソリューションズ、NTT研究所、富士通研究所、日本IBM、凸版印刷、ダイハツ工業、野村総合研究所、パナソニックIS、ローム、ヤフー、日本HP、富士通ST、NTTデータ関西、地方公務員

在学生の何倍もの学校推薦依頼が大手企業から毎年あります。博士を目指す方も大歓迎です！

5. 関西圏女子大の高度情報教育促進支援プログラム

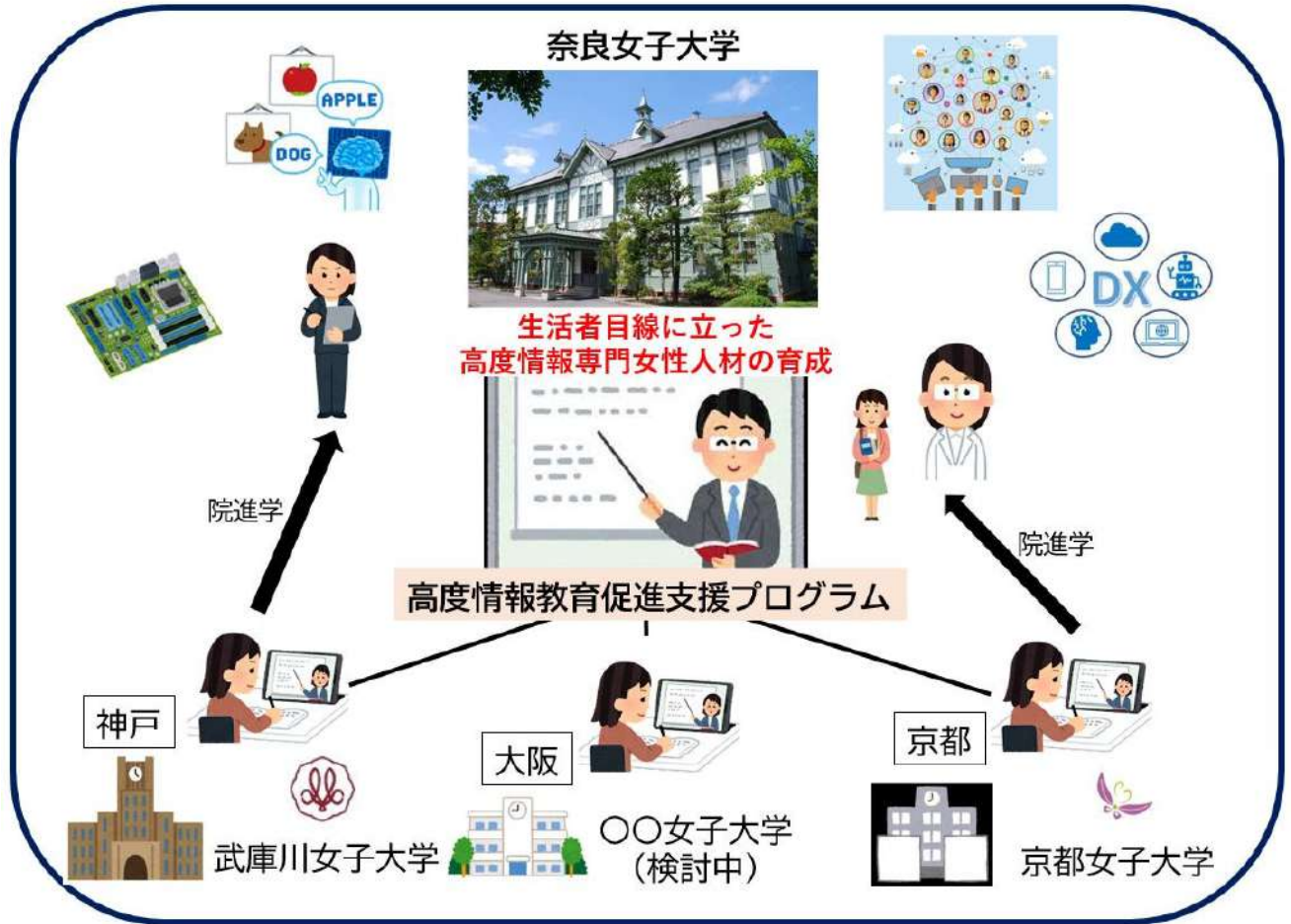
①単位互換を前提としたカリキュラム群を設置

包括協定を締結する京都女子大学、武庫川女子大学とAIを含む情報系分野を網羅した**単位互換プログラム**を構築し、女子学生向け情報教育を充実させ、**情報分野における女性人材の進出と活躍**を目指します。
(講義はオンデマンド配信し、演習はオンサイトで実施)



②プログラム受講者向け**推薦入学制度**

プログラムの規定科目で合格点を取った学生には奈良女子大学大学院情報環境学専攻への推薦入試受験資格を付与、**高度情報専門女性人材に成長する意欲のある学生をサポート**します。



シンポジウム『関西圏女子大学連携「情報分野におけるジェンダー平等実現に向けた高度情報教育促進支援プログラム構想」』

一般社団法人国立大学協会「大学改革シンポジウム」として令和6年1月20日(土)に開催します。奮ってご参加ください!



奈良女子大学
Nara Women's University

作成:企画課 電話:0742-20-3692

mail: hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp



2024
1/20 [土]

13:30~16:30

奈良女子大学 S235教室 (定員250名)

※オンライン参加も可

要申込

高度情報専門人材は我が国のデジタル競争力強化に不可欠な人材です。特に女性高度情報人材は社会や企業に不足し、人材育成が強く求められています。そこで奈良女子大学は30年に渡る情報科学教育の実績も踏まえ、関西圏女子大学とも連携しながら、女性高度情報人材の育成に注力したいと考えています。今回のシンポジウムではその取組をご紹介しますほか、連携する2つの大学からも講師をお招きし、女子大学が高度情報人材育成において果たすべき役割について議論を深めます。

基調講演 13:35~

1 ジェンダードイノベーションと女子大学の役割

三成 美保 奈良女子大学名誉教授/追手門学院大学法学部教授



2 ジェンダー平等がもたらす情報科学教育研究の進展

鯨坂 恒夫 武庫川女子大学社会情報学部長



休憩

報告 15:00~

1 奈良女子大の高度情報専門人材育成事業の紹介

松本 尚 奈良女子大学生活環境学部教授

2 武庫川女子大の人材養成に関する取組紹介

新田 直子 武庫川女子大学社会情報学部教授

3 京都女子大の人材養成に関する取組紹介

石川 由羽 京都女子大学データサイエンス学部講師

総合ディスカッション+質疑応答 16:00~

お問い合わせ 奈良国立大学機構(奈良女子大学)企画課
TEL.0742-20-3692 hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp

お申し込みはウェブサイトから
右のQRコードよりお申し込みください。

※オンラインにてご参加の方には、後日ZoomURLをお知らせします。



関西圏女子大学連携
シンポジウム
情報分野における
ジェンダー平等実現に向けた
高度情報教育促進支援プログラム構想

主催 国立大学法人奈良国立大学機構 奈良女子大学
共催 一般社団法人国立大学協会、国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学
協力 武庫川女子大学、京都女子大学

